

第3回郡山市子ども・子育て会議 会議録

【日時】平成25年11月7日（木）午後1時30分～午後3時

【場所】多目的ホール1

- 【次第】
- 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 保育料無料化について
 - (2) その他
 - 3 その他
 - 4 閉会

【出席委員】15名（敬称略）

吾妻 利雄	遠藤 重子	大川原 順一	菊池 信太郎
相楽 正人	佐藤 広美	鈴木 ミドリ	鈴木 宮子
滝田 良子	丹藤 茂	平栗 裕治	保住 キミ
峯 淳子	安田 洋子	横山 智恵	

【欠席委員】5名（敬称略）

遠藤 智子	太神 和廣	大和田 新	瀧田 勉	古川 一浩
-------	-------	-------	------	-------

【事務局職員】12名

こども部：寺西仁（部長）、鈴木武泰（部次長）、野口雅世子（部次長兼こども支援課長）

こども未来課：三瓶克宏（課長）、寄金孝一（主幹兼課長補佐）

古川誠（こども企画係長）、西名華奈子（こども企画係主任）

こども支援課：宗方成利（こども支援課課長補佐）

こども育成課：熊田仁（課長）、寺山佳世子（主幹）矢部俊明（課長補佐兼保育所係長）

井上薫（管理係長）

【配布資料】

資料1：幼稚園・保育所等保育料の無料化について

資料2：ニーズ調査の内容について

資料2-1：ニーズ調査票（就学前のお子さんをもつ保護者の方へ）

資料2-2：ニーズ調査票（小学生のお子さんをもつ保護者の方へ）

資料3：行政視察について

【会議内容】

1 開会

(寄金主幹) 定刻となりましたので、「第3回郡山市子ども・子育て会議」を開催いたします。

本日御都合により、遠藤智子様、太神和廣様、大和田新様、瀧田勉様、古川一浩様が欠席されておりますことを御報告いたします。

なお、本日の欠席者は5名であり、出席者は過半数を超えておりますので、郡山市子ども・子育て会議条例第5条第2項により、本会議は成立しておりますことを御報告いたします。

2 議事

(寄金主幹) 本会議の議長につきましては、郡山市子ども・子育て会議条例第5条第1項の規定により、会長が務めることとなっておりますので、これから先の会議の進行につきましては、滝田会長にお願いいたします。

(滝田会長) それでは、ただいまから「第3回郡山市子ども・子育て会議」の議事に入ります。委員の皆様には、積極的に御発言をいただくとともに、本会議の円滑な運営のため御協力をいただきますようお願いいたします。

議事の1番「保育料無料化について」事務局の説明をお願いします。

【事務局（三瓶課長）別紙資料1「幼稚園・保育所等保育料の無料化について」により説明】

(滝田会長) 家庭内保育児童への支援はどうするのか。

(三瓶課長) ニコニコこども館、地域子育て支援センター等における事業の充実を図る。

(滝田会長) 現在行われている補助（就園奨励費、保育料軽減など）への上乗せと考えてよいか。

(三瓶課長) 現在行われている補助への上乗せである。

(滝田会長) 対象園児が第1子となっているが、具体的な基準を聞きたい。

(三瓶課長) 夫婦間で1番目に産まれた子どもと考えている。

(滝田会長) 保育料無料化について、委員各位からの意見を求める。

(吾妻利雄委員) 無料化実施による費用はどれくらいになるのか。幼稚園・保育所等を利用していない子ども達や保護者への支援内容も明確にすべき。

市として行う無料化の制度と国が行っている各制度との整合性は図るべき。

(遠藤重子委員) 無料化自体はよい。

税金を使う以上、制度設計を上手く図ってほしい。

(大川原順一委員) 国の支援が第1子に対し手薄い理由を聞きたい。

学童保育は両親が働きながら子育てをするためには重要である。学校で行っている学童保育の他に民間で行っている学童保育もあるが、そこに対しての補助はない。民間が運営する学童保育への財政支援も検討する必要がある。

(菊池信太郎委員) 無料化が少子化対策として有効なのか。同じ費用で少子化対策としてより効果的な施策の可能性について検討すべき。

(相樂正人委員) 無料化自体の主旨はよいと思われる。恒久的な財源確保を考慮すべき。

(佐藤広美委員) 無料化自体の主旨はよいと思われる。財源の確保が必要であると思う。

(鈴木ミドリ委員) 家族形態が多様化しているので、第1子の定義をきちんとした方がよい。国や他の市町村の動きを注視する必要があると思う。

(横山智恵委員) 所得制限の案で妥当である。

(安田洋子委員) 第1子に対する国の支援は手薄である。認可外保育施設の場合、現在では市の補助金が受けられるのは第3子からであり、第2子への支援も検討する必要があると思われる。

(峯淳子委員) 早く実施されるとよい。

(保住キミ委員) 早く実施されるとよい。

(平栗裕治委員) 郡山市としてのビジョンが大切である。幼児教育は重要であり、先進国では幼児教育への公費投入を投資と捉えている。その意味で無料化は大切である。制度設計については多方面から検討してほしい。

(丹藤茂委員) 恒久的な財源確保が必要である。現在、高校授業料は全員無料であるが、今後、所得制限が設けられる。それに伴う事務量の増大が見込まれる。

(鈴木宮子委員) 子どもが小学校に入学した後も、子育てにはお金がかかる。第2子以降にも支援があるとよい。保育所や認可外保育施設においても、教育が受けられるとよい。

(遠藤重子委員) 認可外保育施設は、施設毎に特色を持った運営を行っているので、保護者が子どもに合った施設を探し利用していただきたい。

(吾妻利雄委員) 平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が施行される予定で、その過渡期に無料化を急いで実施する必要性はあるのか。

(三瓶課長) 財源確保については、長期的な視点から所得制限を設ける案が妥当と考えている。

家庭内保育児童への支援については、ニコニコこども館、地域子育て支援センター等で行っていく。

国の施策には、幼稚園利用保護者に対しては就園奨励費、保育所利用保護者には第2子以降には保育料軽減がある。それらと調整しつつ市は制度設計を図っていく。

学童保育については、これから行うニーズ調査の結果等も踏まえ検討していく。第1子の定義については、今後制度設計の中で決めていく。

他市の状況については、中核市の中では定額補助を行っている自治体がある。

(吾妻利雄委員) 平成 27 年 4 月からの新制度では、郡山市の場合、地域型保育給付に相当な財源が必要になると考えられる。子育て支援施策全体として財源の振り分けを検討する必要があると思われる。

(三瓶課長) 早く実施してほしいという意見もあるため、平成 26 年 4 月からの実施を考えている。

(滝田会長) 次に議事の 2 番「その他」について何かございますか。

(古川係長) ニーズ調査の内容について説明します。

【事務局 (古川係長) 資料 2 により説明】

(滝田会長) ただいまの事務局の説明について、御意見、御質問はありますか。

(鈴木ミドリ委員) 小学生保護者用調査票へ、長期休業中の学童保育のニーズに関する設問は必要ではないのか。

(古川係長) 今後検討を加えていく。

(安田洋子委員) 学童保育の利用状況、利用希望を、市で運営している所と幼稚園や保育所、民間で運営している所とわけて捉えることはできないか。

(古川係長) 今後検討する。

(鈴木ミドリ委員) 現在、郡山市にはない認定こども園への利用希望が多くあった場合の対応はどのようにするのか。

(三瓶課長) 多くのニーズがあれば、施設整備のきっかけとなる。

(鈴木ミドリ委員) 郡山市内に市立幼稚園はあるのか。

(三瓶課長) ない。

(滝田会長) 以上で、予定されていた議事は全て終了いたしました。委員の皆様には本当に活発なる御意見をいただきまして、ありがとうございました。それでは、進行を事務局のほうに引継ぎます。

3 その他

(寄金主幹) 滝田会長におかれましては、円滑な会議進行ありがとうございました。その他、委員の皆様から何かございますか。

(西名主任) 先進地視察について説明します。

【事務局 (西名主任) 資料 3 により説明】

4 閉会

(寄金主幹) それでは、以上を持ちまして、第 3 回郡山市子ども・子育て会議を終了させていただきます。委員の皆様には、長時間にわたり、誠にありがとうございました。